

# 香芝市のバランスシートについて

## 1. バランスシートとは

地方公共団体の会計は、単年度の現金主義の会計を基本としているため一年間にどのような収入があり、何にいくら支出したのかなど、現金の動きを表すには適していますが、資産や負債に関する情報（いわゆるストック情報）がわかりにくいものとなっています。

バランスシートは、会計年度末時点において市が持っている土地や建物などの財産（資産）と、その財産を持つために使ったお金の調達方法（負債・正味資産）との状況を総合的に対照表示した一覧表です。

下図からも分かるように、バランスシートは、「資産＝負債＋正味資産」という関係にあり、双方が同額になってつり合うことからバランスシートと呼ばれています。

借方には、これまでに建設・取得した建物や土地など将来にわたり利用される財産が「資産」として計上されています。貸方には、借入金残高など将来の世代のかたが負担しなければならない額が「負債」、これまでの資産取得の財源とした国・県支出金などの額、つまり今までの世代のかたが負担した額が「正味資産」として計上されています。

### バランスシートの構造

$$\text{資産} = \text{負債} + \text{正味資産}$$

<b>資 産</b> (現在の市の資産総額)	<b>負 債</b> (将来の世代の負担)
	<b>正味資産</b> (今までの世代による負担)

**借 方**                      **貸 方**  
〈資金の使いみち〉      〈資金の調達内容〉

## 2. バランスシートの作成基準

### (1) 対象会計

普通会計（一般会計と土地取得特別会計と老人保健特別会計の一部が対象と

なります。)

(2) 作成基準日

会計年度の最終日（3月31日）を作成の基準日とし、出納整理期間（4月1日～5月31日）における出納については、基準日までに終了したものとして処理します。

(3) 基礎数値

全国の自治体で作成している「地方財政状況調査表」が電算化された昭和44年度以降のデータを基礎数値として使用しています。

(4) 一年基準の適用

バランスシートの表示上、流動と固定を分類するに当たり、一年以内に入金または支払の期限が到来するものを流動資産、流動負債とし、それ以外のものを固定資産、固定負債としました。

(5) 資産評価の方法

「地方財政状況調査表」における普通建設事業費を有形固定資産の取得原価とし、土地を除く有形固定資産について総務省基準による耐用年数により定額法で減価償却を行っています。

(6) 固定性配列法

固定性配列法とは、バランスシートの表示上、まず上から固定資産、固定負債を表示し、その次に流動資産、流動負債を表示する方法です。これは、地方公共団体のバランスシートの大部分が固定資産で占められているためです。

### 3. バランスシートの見方

借 方		貸 方	
資 産		負 債	
有形固定資産	1年を超えて所有する土地、建物などの資産について、行政目的別に区分しています。また、土地を除いた資産は、毎年度同一額を減価償却しています。	固定負債	将来において返済の必要がある地方債や退職給与引当金などです。
投資等	1年を超えて所有する出資金、貸付金及び将来の目的に備え積み立てている基金の残高です。	流動負債	1年以内に支出が予定されている地方債などです。
流動資産	1年以内に現金化が可能な基金、現金及び市税等の未収金など流動性の高い資産です。	正味資産	
		国庫支出金	現在保有する資産のうち国の支出により形成された金額です。
		県支出金	現在保有する資産のうち県の支出により形成された金額です。
		一般財源等	現在保有する資産のうち税金等により形成された金額です。

$$\text{資産額} = \text{負債額} + \text{正味資産額}$$

#### 4. バランスシートの概要

### 香芝市のバランスシート

「資産」とは、一会計年度を超えて、本市の経営資源として用いられると見込まれるものをいいます。

これまでに建設、取得した建物や土地などの長期間にわたり利用される資産について、その取得原価から減価償却累計額を差し引いた額を行政目的別に区分しています。

外郭団体等への出資金等の残高です。

市が第三者に貸付を行っている金額です。

将来の目的に備え積み立てている基金の残高です。

現金、預金及び一年以内に現金化することが可能な資産です。

現金・預金は基金のうち流動性の高いものや年度末に市が保有している現金等です。

未収金は年度末までに収入できなかった市税等です。

将来の支出が予定されている購入費及び債務補償額です。

		借	方
<b>【資産の部】</b>			
<b>1. 有形固定資産</b>			
(1) 総務費			2,758,793
(2) 民生費			5,935,328
(3) 衛生費			1,090,572
(4) 農林商工費			393,546
(5) 土木費			58,695,869
(6) 教育費			34,478,445
(7) その他			309,012
計			103,661,565
(うち土地)			52,021,221
有形固定資産合計			<u>103,661,565</u>
<b>2. 投資等</b>			
(1) 投資及び出資金			309,349
(2) 貸付金			0
(3) 基金			
① 特定目的基金			314,659
② 定額運用基金			1,500
基金計			316,159
投資等合計			<u>625,508</u>
<b>3. 流動資産</b>			
<b>(1) 現金・預金</b>			
① 財政調整基金			13,441
② 減債基金			56,660
③ 歳計現金			336,504
現金預金計			406,605
<b>(2) 未収金</b>			
① 地方税			1,073,132
未収金計			1,073,132
流動資産合計			<u>1,479,737</u>
資産合計			<u><u>105,766,810</u></u>

※債務負担行為に関する情報

- ① 物件購入等に係るもの
- ② 債務保証又は損失補償に係るもの
- ③ 利子補給等に係るもの

(平成17年3月31日現在)

(単位:千円)

貸 方	
<b>【負債の部】</b>	
1. 固定負債	
(1) 地方債	36,117,565
(2) 債務負担行為	
① 物件の購入等	0
② 債務保証又は 損失補償	0
債務負担行為計	0
(3) 退職給与引当金	4,763,107
固定負債合計	<u>40,880,672</u>
2. 流動負債	
(1) 翌年度償還予定額	3,048,141
(2) 翌年度繰上充用金	0
流動負債合計	<u>3,048,141</u>
負債合計	<u>43,928,813</u>
<b>【正味資産の部】</b>	
1. 国庫支出金	16,346,380
2. 県支出金	1,395,934
3. 一般財源等	44,095,683
正味資産合計	<u>61,837,997</u>
負債・正味資産合計	<u><u>105,766,810</u></u>

「負債」とは、将来において支払や返済の必要があるものをいいます。

将来において支払いや返済の必要があるものです。

香芝市が借入れた地方債のうち翌々年度以降に返済が予定される金額です。

年度末に全職員が退職すると仮定した場合に必要な退職金の金額です。

一年以内に支出が予定される地方債などです。

香芝市が借入れた地方債のうち翌年度に返済が予定される金額です。

「正味資産」は、これまでに資産取得の財源とした国・県の補助金、市民による税金等で、返済の必要はないものです。

香芝市が現在保有する資産のうち、国の支出により形成された金額です。

香芝市が現在保有する資産のうち、県の支出により形成された金額です。

香芝市が現在保有する資産のうち、税金等により形成された金額です。

3,062,492 千円  
11,000,000 千円  
0 千円

5. 平成16年度バランスシート

平成16年度香芝市バランスシート [普通会計]

(平成17年3月31日現在)

(単位:千円)

借 方	貸 方
<b>【資産の部】</b>	<b>【負債の部】</b>
1. 有形固定資産	1. 固定負債
(1) 総務費 2,758,793	(1) 地方債 36,117,565
(2) 民生費 5,935,328	(2) 債務負担行為
(3) 衛生費 1,090,572	① 物件の購入等 0
(4) 農林商工費 393,546	② 債務保証又は 損失補償 0
(5) 土木費 58,695,869	債務負担行為計 0
(6) 教育費 34,478,445	(3) 退職給与引当金 4,763,107
(7) その他 309,012	
計 103,661,565	
(うち土地 52,021,221)	
有形固定資産合計 103,661,565	固定負債合計 40,880,672
2. 投資等	2. 流動負債
(1) 投資及び出資金 309,349	(1) 翌年度償還予定額 3,048,141
(2) 貸付金 0	(2) 翌年度繰上充用金 0
(3) 基金	
① 特定目的基金 314,659	
② 定額運用基金 1,500	
基金計 316,159	
投資等合計 625,508	流動負債合計 3,048,141
3. 流動資産	
(1) 現金・預金	<b>【正味資産の部】</b>
① 財政調整基金 13,441	1. 国庫支出金 16,346,380
② 減債基金 56,660	2. 県支出金 1,395,934
③ 歳計現金 336,504	3. 一般財源等 44,095,683
現金預金計 406,605	
(2) 未収金	
① 地方税 1,073,132	
未収金計 1,073,132	
流動資産合計 1,479,737	正味資産合計 61,837,997
資産合計 105,766,810	負債・正味資産合計 105,766,810

※債務負担行為に関する情報

①物件購入等に係るもの	3,062,492 千円
②債務保証又は損失補償に係るもの	11,000,000 千円
③利子補給等に係るもの	0 千円

# 香芝市の行政コスト計算書について

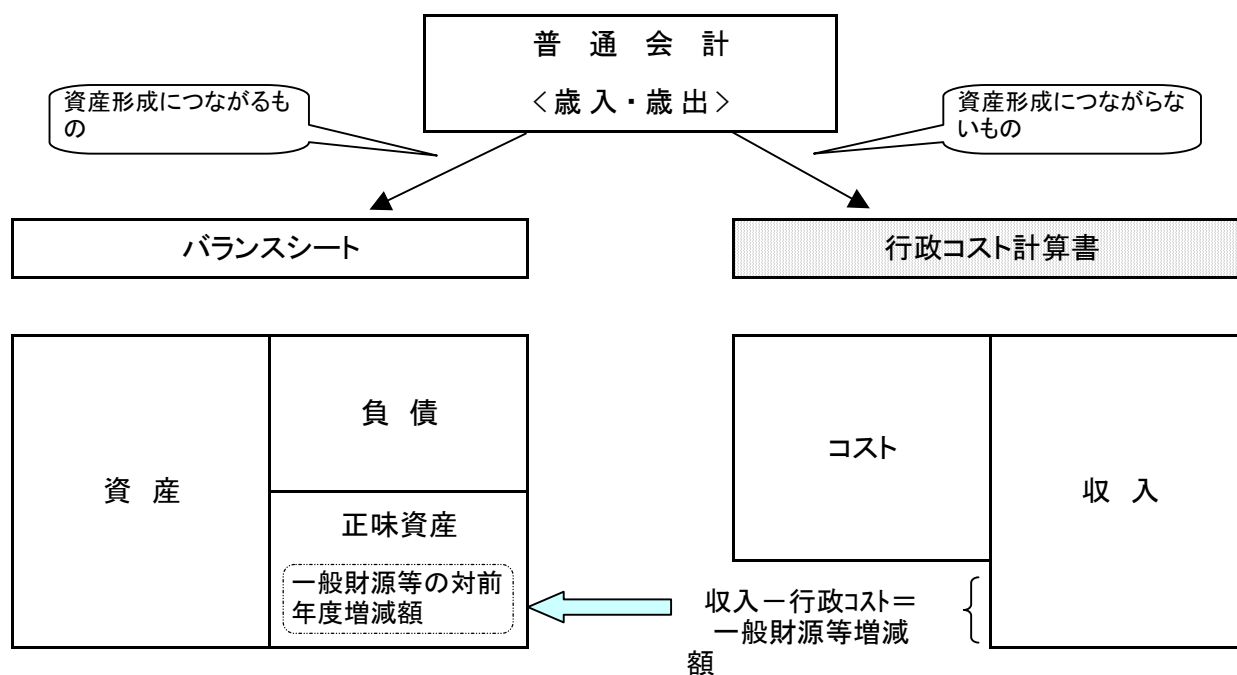
## 1. 行政コスト計算書とは

バランスシートは、香芝市の資産や負債等の状況を明らかにするものですが、地方公共団体の行政サービスは、将来世代も利用できる資産の形成だけでなく、人的サービスや給付サービスなど資産の形成につながらないものがあります。

行政コスト計算書は、これらの行政サービスを提供するため一年間にどの分野にどのようなコスト（費用）がかかり、そのコストをどのような財源で賄っているかを把握するもので、行政活動の効率性を検討する資料となります。

また、行政コスト計算書の一般財源等増減額がバランスシートの正味資産「一般財源等」の期首と期末の増減額を表しています。

バランスシートと行政コスト計算書の関係は、次のようになります。



## 2. 行政コスト計算書の作成基準

### (1) 対象会計

バランスシートと同様に普通会計を対象としています。

### (2) 作成期間

会計年度の初日（4月1日）から最終日（3月31日）までの1年間を対象にしています。

### (3) 基礎数値

全国の自治体で作成している「地方財政状況調査表」のデータを基礎数値として使用しています。

(4) 計上コストの範囲

計上を行うコストの範囲は、当該年度の行政サービスに要した費用のうち、資産形成につながる支出を除いた現金支出に、減価償却費、不納欠損額、退職給与引当金といった非現金支出を加えたものになっています。

(5) 行政コストの分類

行政目的（教育費、民生費など）により分類した目的別経費と経済的性質（人件費、物件費など）を基準として分類した性質別経費とを合わせて計上しています。

3. 行政コスト計算書の見方

行政コスト		収入	
人にかかるコスト	人件費、退職給与引当金繰入金など職員に要する費用	使用料・手数料等	使用料・手数料、分担金及び負担金、財産収入など
物にかかるコスト	物件費、維持補修費、減価償却費など市が最終消費者となっている費用		
移転支出的なコスト	扶助費、補助費、繰出金など他の主体に移転して効果が出る費用	国庫（県）支出金	資産形成につながるもの以外の国庫（県）支出金
その他のコスト	公債費（利子分）、不納欠損額など上記以外の費用	一般財源	市税、地方譲与税、各種交付金



$$\text{収入} - \text{行政コスト} = \text{バランスシートの対前年度一般財源等増減額}$$

#### 4. 香芝市の行政コスト計算書の概要

##### [行政コスト]

(単位:千円)

引当金として16年度に新たに繰り入れた額

有形固定資産(土地を除く)に関して、価値の減少分を費用として計上した額

未収金のうち不納欠損として処理した額

		総 額	(構成比率)
人 コ に か ス か る ト	(1) 人件費	3,550,042	22%
	(2) 退職給与引当金繰入等	480,361	3%
	小 計	4,030,403	25%
物 コ に か ス か る ト	(1) 物件費	2,422,341	15%
	(2) 維持補修費	35,973	0%
	(3) 減価償却費	2,875,125	18%
	小 計	5,333,439	33%
移 コ に か ス か る ト	(1) 扶助費	2,189,776	14%
	(2) 補助費等	2,019,646	12%
	(3) 繰出金	1,651,795	10%
	(4) 普通建設事業費 (他団体等への補助金等)	90,475	1%
	小 計	5,951,692	37%
そ の 外 の ト	(1) 災害復旧事業費	0	0%
	(2) 失業対策事業費	0	0%
	(3) 公債費(利子分のみ)	880,501	5%
	(4) 債務負担行為繰入	0	0%
	(5) 不納欠損額	63,965	0%
	小 計	944,466	6%
行政コスト		a	16,260,000
(構成比率)			

##### [収入項目]

資産形成の財源となっている分を除いた国・県支出金の現年調定額

有形固定資産の減価償却に伴い、バランスシートに計上している国県支出金の償却額

バランスシートの正味資産の部「一般財源等」の前年度増減額と一致

1 使用料・手数料等	b	1,275,617	
	b/a	8%	
2 国庫(県)支出金	c	2,509,850	
	c/a	15%	
3 一般財源	d	12,493,665	
	d/a	77%	
収 入 (b+c+d)	e	16,279,132	
4 正味資産国庫(県)支出金償却額	f	505,081	
5 期首一般財源等		43,571,470	
差 引 (e-a+f)			
一般財源等増減額		524,213	
6 期末一般財源等		44,095,683	



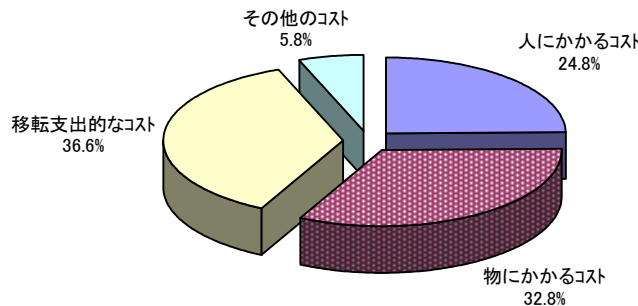


## 6. 行政コスト計算書の説明

### (1) 性質別行政コストの内訳について

平成16年度末現在の香芝市の行政コスト総額は、162億6千万円となりました。性質別の内訳では、扶助費や補助金などの「移転支出的なコスト」が59億5千万円（全体の36.6%）で最も多く、物件費、減価償却費などの「物にかかるコスト」が53億3千万円（同32.8%）、人件費などの「人にかかるコスト」が40億3千万円（同24.8%）、公債費（利子のみ）等の「その他のコスト」が9億5千万円（同5.8%）の順となっています。

【性質別行政コスト】

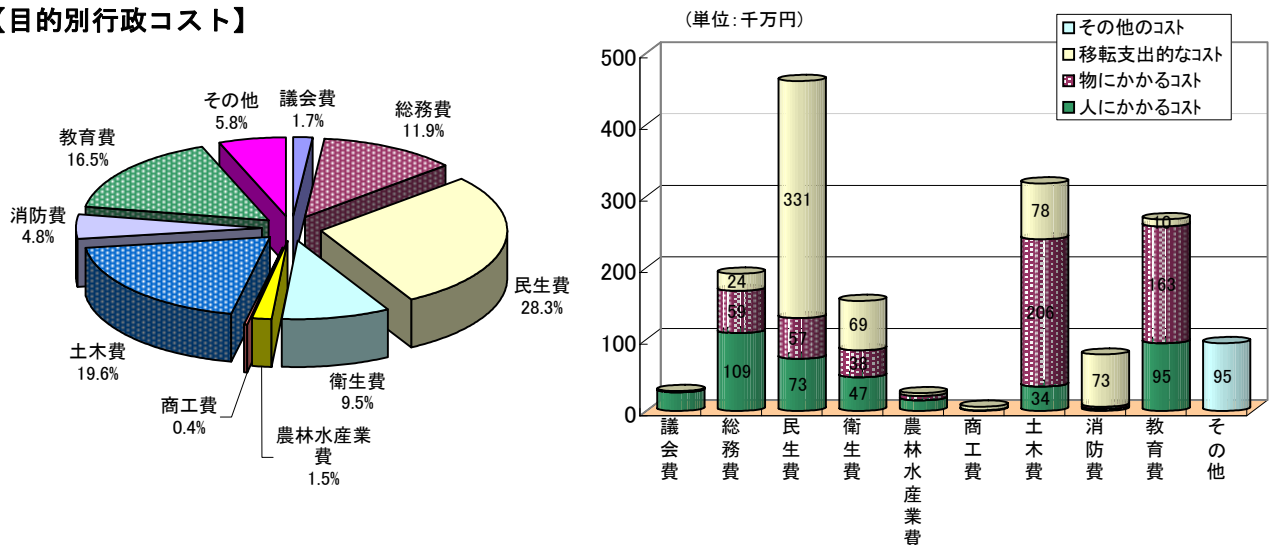


### (2) 目的別行政コストの内訳について

目的別の内訳では、民生費が46億1千万円（全体の28.3%）で最も多く、土木費が31億8千万円（同19.6%）、教育費が26億8千万円（同16.5%）と割合が高い費目となっています。

また、民生費では移転支出的なコスト（うち扶助費46.8%）、土木費・教育費では物にかかるコスト（うち土木費は減価償却費57.1%、教育費は物件費37.7%）が多くを占めています。

【目的別行政コスト】



## 6. バランスシートの説明

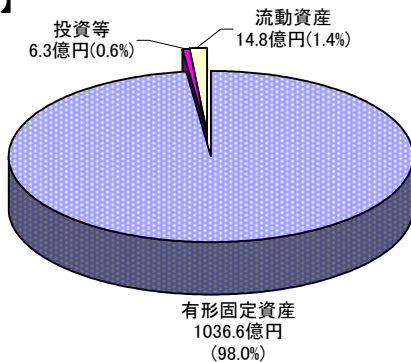
### (1) 資産について

資産は、いろいろな行政サービスを提供するためこれまでに形成したものです。なお、資産には道路や橋りょうなども含まれているため、必ずしも売却のできる資産を表しているものではありません。

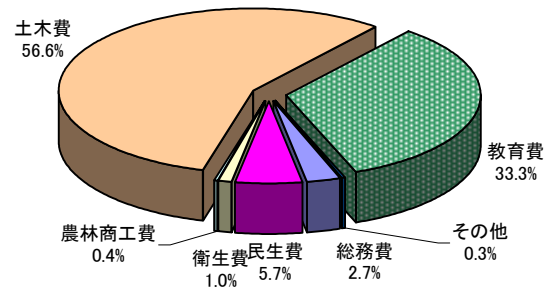
平成16年度末現在の香芝市の資産総額は、1,057億7千万円となりました。資産の内訳は、「有形固定資産」が1,036億6千万円で、資産総額の98.0%を占めています。

また、「有形固定資産」を行政目的別に見ると、道路・公園・河川・住宅などの土木費が587億円で56.6%を占めるほか、学校・幼稚園・文化センター・体育館などの教育費が344億8千万円で33.3%、それ以外の資産の合計が104億8千万円で10.1%を占めており、土木や教育関係の資産が大部分を占めていることが分かります。

【資産の部】



【有形固定資産の行政目的別】

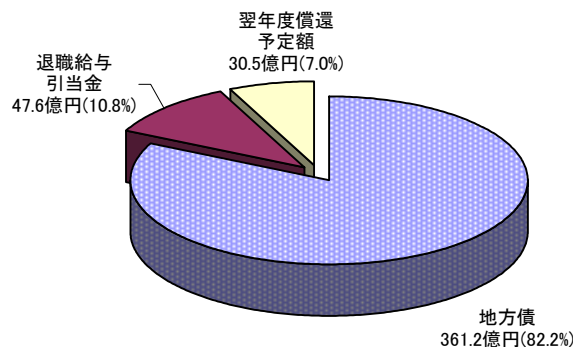


### (2) 負債について

負債は、資産形成のための財源である地方債など、市民の負債として将来にわたって返済していかなければならないものです。

平成16年度末の負債総額は、439億3千万円になります。負債の内訳は、市の借入金残高を表す固定負債の「地方債」と、流動負債の「翌年度償還予定額」との合計が391億7千万円で89.2%を占めているほか、「退職給与引当金」が47億6千万円で10.8%を占めています。

【負債の部】



### (3) 正味資産について

正味資産は、これまでに資産取得の財源とした国・県の補助金及び税金等で、今後返済の必要がない純粋な資産を表しています。

資産から負債を差し引いた平成16年度末の正味資産総額は、618億4千万円となっており、資産に占める正味資産の割合は58.5%となっています。

内訳は、「国庫支出金」が163億5千万円で26.4%、「県支出金」が14億円で2.3%、「一般財源等」が440億9千万円で71.3%となっています。

【正味資産の部】

